

表現力の向上を目指した学習指導の研究

～小中一貫した学びの基礎基本（話す・聞く）の指導を通して～

II 主題設定の理由

1 社会の要請・教育的課題から

平成20年3月に新学習指導要領が告示され、学力に関しては、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等、③学習意欲が重要な要素として示された。このことは現行学習指導要領の「生きる力」と同じ理念を目指していくことを意味し、今後も、どのようにして児童生徒に、「生きる力」を身に付けさせていくべきかが大きな課題となった。

2 地域の実態から

高原町は、県西の霧島山麓に位置し豊かな自然に恵まれ、神楽や棒踊りなど伝統文化がしっかりと受け継がれている地域である。町内には、小学校4校、中学校2校があり、高原中学校区と後川内中学校区の地域ごとに小中連携を図っている。小中連携では、「知」「徳」「体」の3部会に分かれ、小中学校職員合同による授業研究会、生徒指導部会等で連携を深めている。今後は、さらなる連携を通して、小中一貫をめざした学習指導の工夫を行いながら基礎学力の向上を図っていくようソフト面での充実が求められている。

また、近隣のえびの市や小林市の小中一貫教育が推進されていくなか、本町の教育施策としても小中一貫教育の推進が掲げられ、小学校と中学校の統合に向かってハード面の準備が進められようとしている。

これらのことを踏まえ、前年度、本研究所では「基礎学力の向上をめざした学習指導の研究」を研究主題に、小中一貫して基礎学力よりさらに具体的な能力を発達段階に応じて設定し、「学びの基礎基本の一覧表」を作成した。そして、この一覧表の読む能力の育成に焦点をあて、音読活動を中心とした指導法の工夫・改善について研究を進めてきた。その結果、音読集の普及が図られたり、読み取りの授業が充実したりする等の成果を得ることができ、今後、「学びの基礎基本の一覧表」の検証を重ねながら他の観点について修正していくことになった。また、前年度末に町内教職員を対象にアンケートの実施したところ、授業の発表が単発的で話し合いが深まらない、あいさつの声が小さい、原稿なしで司会ができない等の表現力の向上に関する意見が多くあった。

3 研究の方向性

そこで、本年度は「学びの基礎基本の一覧表」をもとに、話す・聞く能力に焦点をあて、その指導の工夫を図ることで、児童生徒の表現力を向上させることができると考え、本主題を設定した。

III 研究目標

高原町内の小中学校が一貫して身に付けさせたい「学びの基礎基本の一覧表（話す・聞く）」をもとに、その指導について共通実践・検証したことを広め、高原町内の児童生徒の表現力を向上させるための指導について究明する。

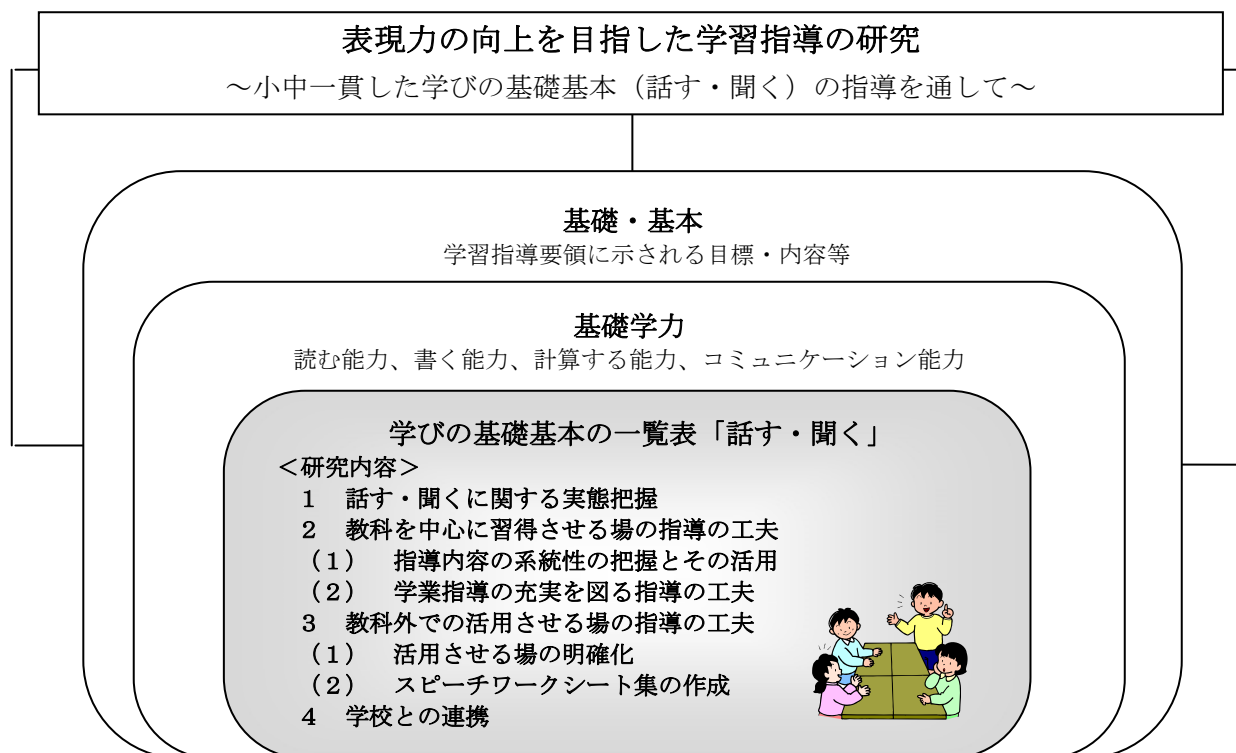
IV 研究仮説

研究全体の仮説： 学校教育活動全体を通して、①「学びの基礎基本の一覧表」の話す・聞く能力を習得させる指導とともに、②それらを活用させる指導を工夫していけば、児童生徒の学習意欲が高まり表現力が向上するであろう。

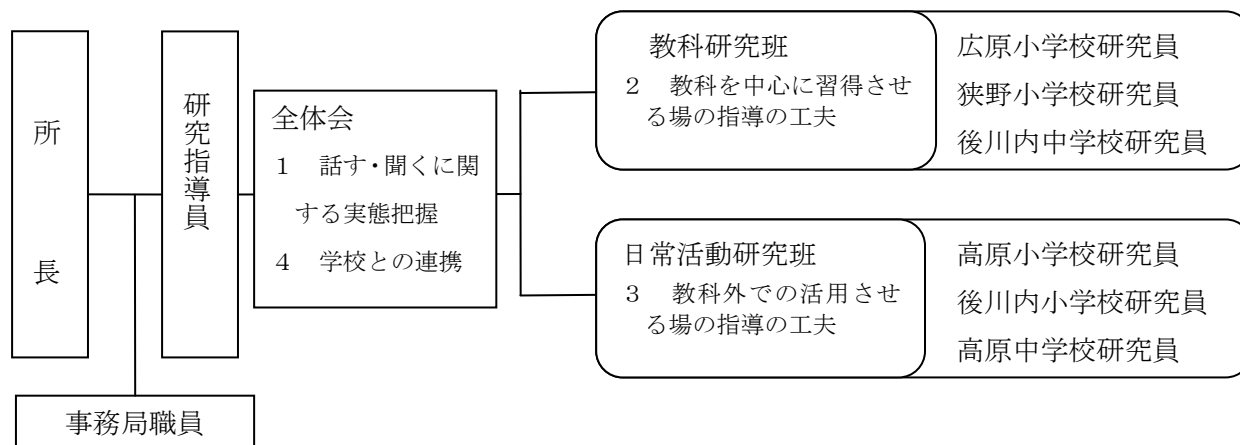
①の仮説： 国語科を中心とした学習指導を通して、指導内容の系統性を把握し授業を工夫するとともに、話す・聞くに関する学業指導を工夫していけば、児童生徒の学びの基礎基本（話す・聞く）が定着し、学習意欲が高まり表現力が向上するであろう。

②の仮説： 朝・帰りの会等の常時指導を通して、話す・聞く能力を活用させる場を絞り込み、書く活動と関連を図りながら指導を行えば、児童生徒の表現することへの自信が高まり表現力が確実に身に付くであろう。

V 研究構想（図）



VI 研究組織



VII 研究の実際

1 話す・聞くに関する実態把握（町内教職員へのアンケート結果）

（1）教科指導研究班

設1：授業中の「話す・聞く」に関する実態をお聞かせください。

＜小学校＞

- ・基本話型が定着していない。・発表する際、理由や根拠が言えない。
- ・文末表現が目的を持って表現できない。・文末まではっきりと言えない。
- ・語尾がはっきりしない（小さくなる）。・人前で話すのが苦手。
- ・話す相手を見ていない。・人の発表に対する自分の意見や感想が言えない。
- ・メモや原稿があればスピーチできる。

＜中学校＞

- ・発表の声が小さい。・みんなの方を向いて発表ができない。
- ・文末が小さくなり最後まではっきりと言えない。・人前での発表に慣れていない。
- ・気持ちを出して自分の考えを話すことができない（機械的）。
- ・自分の気持ちをすぐに表現できない。
- ・気付いたことなど何を言っているのか分からない。
- ・充実した話し合いができない。・司会の仕方も分かっていない。
- ・話す人の方を向いて話を聞いていない。

（2）日常活動研究班

設2：日常生活の「話す・聞く」（表現力）に関する実態をお聞かせください。

＜小学校＞

- ・問いに対する答えになっていない。・一語一語がはっきりしていないので聞き取りづらい。
- ・集会や話し合い活動などで臨機応変にその場に応じた言葉がなかなか言えない。
- ・マニュアル通りに進行をすることはできるが、見ないとできない。
- ・指導直後のあいさつ等はあるが、時間がたつと言えない。
- ・語彙が少なく、公の場で自分の気持ちを表現することが苦手。
- ・名前を呼ばれたら返事をする習慣が不十分。

＜中学校＞

- ・集会等で名前を呼ばれたら堂々とした返事ができない。
- ・面接等で自分の言葉で順序立てて話ができない。
- ・臨機応変に適切な言葉を選べない。・自分に自信がない言動が多い。
- ・応用力がない。・自分から進んであいさつができない。
- ・スピーチで似たような内容が多く、個性的な表現ができない。
- ・スピーチから考えを広めたり、深めたりすることが苦手。
- ・話をまとめることが苦手。

（3）考察

- 設1については、「です。」「ます。」まではっきり発表したり、自分の立場を明らかにして発表したりするなど、基本話型が十分身につけていないことがうかがえる。また、発表への意欲が、年齢とともに低下していく傾向がみられる。
- 設2については、返事やあいさつなど基本的な生活習慣に関わる内容が十分ではなく、目的に応じたり、聞き手の立場に立ったりして表現することが苦手である。
- ◎ このようなことから、基本話型の指導を徹底すること、目的に応じた話す機会の充実等が必要であると考えられる。

2 教科を中心に習得させる場の指導の工夫（教科研究班）

（1） 指導内容の系統性の把握とその活用

ア 系統表の作成

主題に迫るためには国語科の話す・聞くに関する基礎・基本を確実に身に付けさせることが必要である。また、児童生徒にとって話す・聞くに関する言語活動は、全教科を通して相互補完的に身に付いていくものである。そこで、国語科では、教科書から各学年の「話す・聞く」に関する指導内容を整理し、系統表を作成した（下表）。

学年	①話す	②聞く	③読む
小1	※入門期のため単元なし ・簡単な話型に沿って話をする。 ・大きな声ではっきり話し、友達の話をしっかり聞く。		
	教えてあげる、たからもの	まよい大きさがせ	「おもちゃ」
小4	知らせたい、あんなことこんなこと ・必要なことを落とさずに話し、メモを取りながら聞く。	電話で話すよう ・大事なことを事柄ごとにまとめて話し、メモを取りながら聞く。	「くらしのね」 ・筋道を立てたいことを考
小5	伝え合おう、5年生でがんばりたいこと ・組み立てを工夫し、理由や例を挙げて話し、話し手の考えをとらえながら聞く。	会話をはずませよう ・相手の話の意図を考えながら聞き、かみ合った会話をする。	ニュースを ・話の組み立 話し方の工夫
小6	伝え合おう、わたしの意見 ・事実と感想・意見を区別して話し、話し手の意図を考えながら聞く。	気持ちのよい話し方をしよう ・相手や伝える内容に気を配った言葉づかいをする。	ニュース番組 ・役割に応じ の工夫に注意
中1	話し方はどうか ・適切な声の表情で伝える練習をする。 100秒スピーチをしよう ・身近な話題について自分が感じたことを話す。	聞き上手になろう ・係面に応じた聞く力を養う。	分かりやすい ・聞き手に伝 達するための
中2	3分間スピーチをしよう ・新聞記事を読み、自分の意見を話す。	聞き上手になろう ・問題意識を持って相手の話を聞く力を養う。	効果的な話し ・相手に効果 を考える。
中3	発声の基礎を目標そう ・発声や呼吸に気をつけて練習をする。 自己PRスピーチをしよう ・エピソードを交えて、自分を紹介する。	聞き上手になろう ・自分自身の考えを応用しながら話を聞く力を養う。	説得力のある ・相手を納得 ぶ。

【国語科の話す・聞くに関する系統表】

実際の授業では、系統表をもとに把握した内容をいつ、どのように生かしていくのかを考えていく必要がある。

そこで、基本的な単元計画を整理した。

導入	＜前学年の学習内容を導入で活用＞ ○ 前学年の教科書の内容をOHCで視覚的に提示 ○ 前学年の学習内容に関する発問	等
展開		
終末	＜次学年の学習内容を終末で活用＞ ○ 次学年の学習内容の概略を説明 ○ 次学年の学習内容に関する発問	等

さらに社会科、算数科（数学科）、理科の指導内容に関する系統表を作成し、国語科を中心に全教科を通して、系統性を意識した指導ができるようにした。

イ 指導の実際

○ 導入の工夫 国語科（５年：ニュースを伝え合おう）

本単元は、第４学年の「くらしの百科の時間です。」を受けて設定されている。学習内容を想起しやすいように、第４学年の教科書をＯＨＣ（オーバーヘッドカメラ）により視覚的に訴え、児童が既習内容を整理できるようにした。

話のすじ道を立てる

○何を使得、どんな手順でするかを、「まず」「そして」などの言葉を使って分かりやすく説明する。

○「なぜ…」「…からです」などの言い方を使って、理由が分かるように話す。

【第４学年の指導内容】

言葉で理由を述べる内容から、本単元では、資料等を根拠に事実と感想・意見を区別して話す活動へ移行する。

考えたことをはっきり伝える

○事実と感想・意見を区別して、話の組み立てをくふうする。

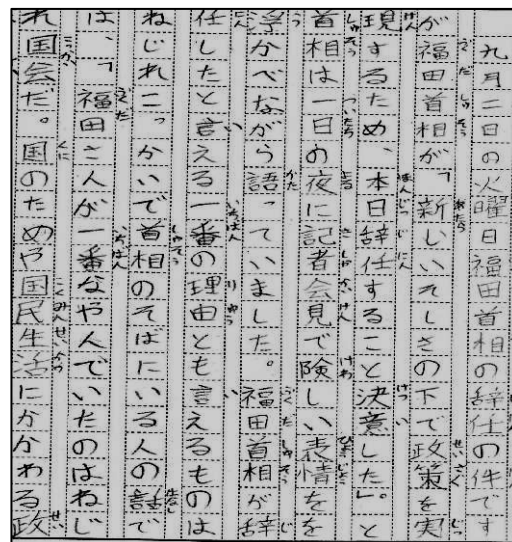
○根きよになる資料を提示する。

【第５学年の指導内容】

考察

導入で、第４学年で学習した内容を想起させたことで、第５学年の新しい学習内容に気付くことができた。このことにより、児童自身が学習のねらいを明確にもつことができた。

理由を明らかにし、文末表現を意識して書いている。



【児童の作文】

(2) 学業指導の充実を図る指導の工夫

ア 基本話型の作成

児童生徒の円滑な「話す・聞く」に関する基本的な言語活動が行えるように、町内各小学校の基本話型表を持ち寄り内容を整理して、町内共通で使えるような小学校用の基本話型表を作成した。なお、中学校においては、言語活動に広がりをもたせるために、小学校で身に付けた「話す・聞く」の能力を生かしていくようにした。

へんじ	いけん	おなじ	ちがう	つづく	わえ
・「はい」と大きな声ではっきりと。	・ぼくは（わたしは）○○とおもいます。	・おなじです。 ・ぼくも（わたしも）○○とおもいます。	・ほかにもあります。 ・ぼくは（わたしは）○○とおもいます。	・○○くん（さん）の考えにつけくわえます。	・ぼくは（わたしは）○○とおもいます。

低学年用（一・二年用）

返事	意見	同じ	ちがう	つづく	わえ	質問
・「はい」と大きな声ではっきりと。 ・ぼくは（わたしは）○○とおもいます。 ・そのわけは○○だからです。	・二つ目は、○○○です。 ・ぼくは（わたしは）○○○の考えと同じです。 ・そのわけは○○だからです。	・ぼくは（わたしは）○○○の考えと同じです。 ・そのわけは○○だからです。	・ぼくは（わたしは）○○○の考えとちがいます。 ・ぼくは（わたしは）○○○とおもいます。 ・そのわけは○○だからです。	・○○くん（さん）の考えにつけくわえます。 ・ぼくは（わたしは）○○とおもいます。	・○○くん（さん）に質問します。 ・○○○について教えてください。	・○○○について教えてください。

高学年用（五・六年用）

【低学年及び高学年の基本話型表】

さらに、実際の基本話型の指導を充実させるために、児童生徒の自己評価表を作成した。

年 組 番 氏 名		
○ 日頃の学習を振り返り、出来ている項目に○を付けましょう。		
1	指名されたら、「はい」と大きな声で、返事をしている。	
2	頭の中で、考えをまとめてから、意見を述べている。	
3	はっきりとした発音と聞きやすい声の大きさに、発表している。	
4	1分間に300字の速さで話すように、心がけている。	
5	聞き手のほうを見て発表している。	
6	発表するときは、「です・ます」などの敬体で話している。	
7	「まず・次に・なぜなら」などの言葉をうまく使って、わかりやすく話している。	
8	人の意見に対して発言するときは、まず立場（賛成・反対・付け加え、など）をはっきりさせてから、自分の意見を述べている。	
9	短く文章を切るように話す。	
10	難しい漢語や同音異義語は、聞いただけでも意味が理解しやすい言葉かえて、話すようにする。	

中学校で目指す生徒像をもとに作成した。小学校で活用する場合は、項目を精選する。

(例)

低学年：1、3、5
高学年：1、3、5、6、8

【自己評価表】

イ 話し合いマニュアルの作成

「話す・聞く」に関する基本的な言語活動を小グループにおいても行うことができるよう、話し合い活動の指導を行った。話し合い活動を円滑に進めるため「話し合いのマニュアル」を作成し、マニュアルをもとに司会者が話し合い活動を進めることができるようにした。

- 1から4までの大きな柱を立て、どのような話し合い活動でも活用できるようにした。
- 司会者、発表者の両者の話型を載せることで全ての児童が司会も発表もできるようにした。

話し合いの進め方(高学年)

1 意見を出し合う。
司会者 「意見はありますか？ 意見を出して下さい。」
「○○○について意見をお願いします。(△△さんからお話しします。)」
発表者 「□□だと思います。理由は ～ だからです。」
司会者 「他の意見はありますか。」
「△△さんからお話しします。」
発表者 「他に意見があります。□□だと思います。理由は ～ だからです。」

2 質問をする。
司会者 「質問はありますか。質問を出して下さい。」
発表者 「△△さんに質問です。□□ですか。」

3 考えを深め合う。
司会者 「同じ意見(賛成意見)を出して下さい。」
発表者 「△△さんと同じ意見です。(賛成です。)」理由は ～ だからです。」
司会者 「ちがう意見を出して下さい。」
発表者 「△△さんとちがう意見です。□□だと思います。理由は ～ だからです。」

4 意見をまとめる。
[1つの意見にめとめるとき]
司会者 「□□という意見が多いようです。□□という意見にまとめてみましょうか。」
発表者 「はいです。」
[色々な意見のまままとめるとき]
司会者 「□□という意見や、□□という意見が多かったです。これらの意見にまとめてみましょうか。」
発表者 「はいです。」

【話し合いマニュアル】

考察

話し合いのマニュアルを活用したことで、小グループごとに自分たちで話し合いをスムーズに進めることができた。また、児童からも「話し合いがしやすかった。」「司会がうまくできた。」などの感想があがった。しかし、グループによっては、マニュアルにとらわれすぎて、話し合う内容が深まらないグループもあった。



【話し合い活動の様子】

3 教科外での活用させる場の指導の工夫（日常活動研究班）

（1） 活用させる場の明確化

学習指導要領国語科解説では、「国語の能力や国語に対する関心・意欲は、国語科だけでなく、他教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間」などの学習でも養われるものであり、さらに、「学校教育活動全体・・・。」ということが示されている。

このことは、国語科を中心に培われた国語の能力が活用される場が必要であると捉えることができる。

そこで、学校生活の中で、児童生徒が取り組む言語活動を洗い出し、その活動の充実を図るために、スピーチワーク集を作成することとした。

（2） スピーチワークシート集の作成

ア 話題の選定

児童に何についてスピーチをさせるのか見通しをもたせることは、表現への意欲を高める上で必要な手立ての一つであると考えた。

そこで、「話題集」を児童に提示して、取り組むことができるようにした。

話題の例

<テーマスピーチ>

- ・ 自分の宝物 ・ 自分の幼い頃 ・ 自分の名前の由来
- ・ 将来の夢 ・ 自分の失敗談 ・ 自分の家族
- ・ 今までで一番笑ったこと ・ 今までに一番怖かったこと

など

<なりきりスピーチ>

- ・ わたしはえんぴつです。 ・ わたしはカラスです。
- ・ わたしはトイレトペーパーです。

など

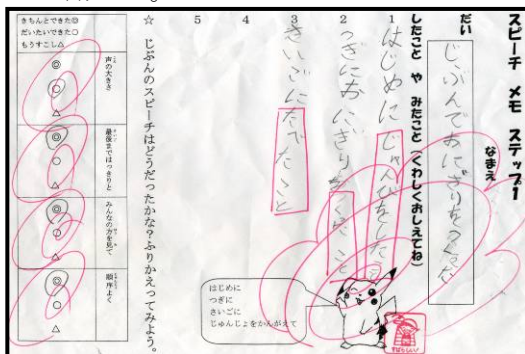
イ 段階的な指導

児童生徒の個に応じた指導を行いやすくするために、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の段階で難易度を変えた指導についての実践例をまとめた。（スピーチメモ、話すためのひみつ、聞かためのひみつ）

（ア） 小学校下学年の実践（ホップ）

a スピーチメモの活用

第1学年では、「したこと」や「見たこと」を順序よく話すことに重点を置きながらスピーチに対する抵抗をなくし、興味・関心を向上させるためにスピーチメモを活用した。



【ステップ1のスピーチメモ】



【スピーチを行う児童】

第2学年では、テーマスピーチを取り入れることでスピーチをすることに興味をもたせ、伝えたいことを順序よく話すことができるようにスピーチメモを活用した。



【テーマスピーチのタイトル】

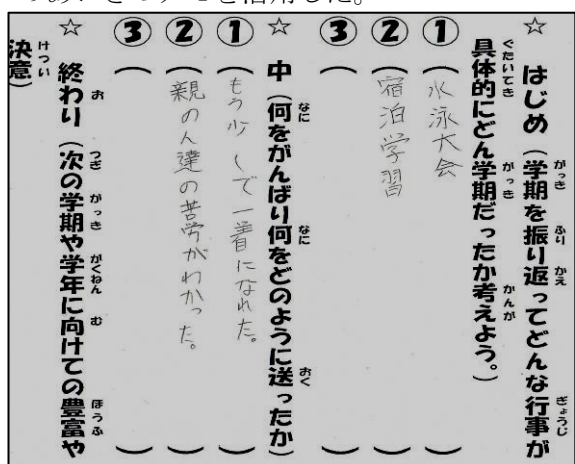


【スピーチを行う児童】

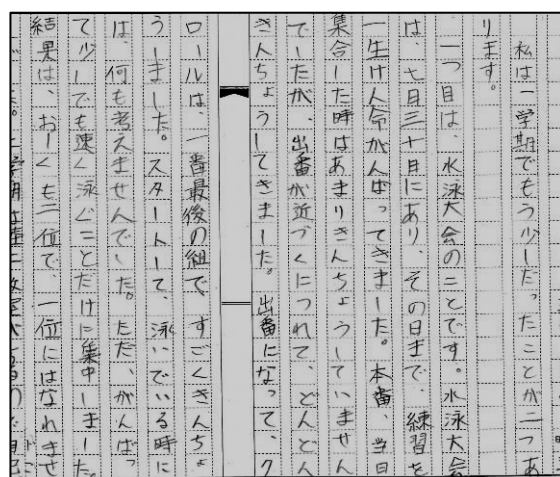
(イ) 小学校上学年の実践（ステップ）

a 終業式のあいさつメモの活用

第5学年では、児童のあいさつ等がスムーズにできるように、書く活動と関連させて終業式のあいさつメモを活用した。



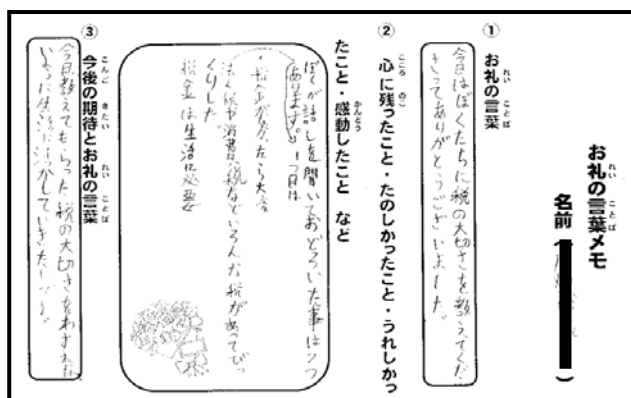
【終業式のあいさつメモ】



【児童の作文】

b お礼の言葉メモの活用

第6学年では、「租税教室」で講師として来られた先生へお礼をする際に、お礼の言葉メモを活用した。講師の先生の話聞きながら、心に残ったことや、感想等のメモを取らせ、そのメモをもとに最後にお礼の言葉を述べさせることで、感謝の言葉だけでなく、話の内容に沿った感想や考えを述べさせた。



【お礼の言葉メモ】



【お礼の言葉を述べている児童】

(エ) 中学校の実践 (ジャンプ)

a スピーチメモの活用

中学校第1学年では、スピーチに興味をもたせるためにスピーチの内容を「スピーチの種類」から選ばせた。また、「一番伝えたいこと」「はじめ」「中」「終わり」の構成ができるようにスピーチメモを活用した。



【スピーチを行う生徒】

スピーチメモ			
名前(内田 恵梨菜)			
終わり	中	はじめ	一番伝えたいこと
試合でかっかて さるために がんばる。	練習はきつくて 毎日ただで	私はバスケ部 に入っています	試合にでるよ さっし練習に えてがんばっ たい。

★聞き方のポイント★

【スピーチメモ】

b 聞き取りメモの活用

聞き手に対しては、「聞くためのひみつ」を示し、姿勢を正して話し手を見て聞くことを徹底させた。また、スピーチ者の話の意図を考えたり、自分の考えと比較させたりするために聞き取りメモを活用した。更に、聞き取りメモをスピーチ者にわたすことで、スピーチに対する意欲を高めさせたり、話し手と聞き手のコミュニケーションの大切さを実感させたりできるようにした。



【スピーチを聞く生徒】

聞き取りメモ							
名前(中原 榛実)							
前にも聞いたこと	まだ聞いたこと	1番の山場	では	何を	誰が	どこで	いつ
頑張ってること	どんな練習ですか	部活をがんばる	がんばっている	部活	自分	学校	今

★聞き方のポイント★
 ◎友達が一番伝えたいことは何かを考えながら聞く。
 ◎スピーチの内容をイメージしながら聞く。

【聞き取りメモ】

VIII 成果（○）と課題（●）

- 系統表作成したことで、児童生徒がいつ、どこで、どのような内容を学習したのかを把握することができ、発問や教材・教具の工夫がしやすくなった。さらに、このことで授業が充実し、児童生徒は意欲的に表現しようとする姿が多く見られた。
- 話型表・話合いのマニュアルを作成したことで、児童生徒が話合い（練り合い）を円滑に行えるようになり、多様な考えを授業で表現できるようになってきた。
- スピーチメモや聞き取りメモを活用することによって、児童生徒が順序よく伝えたいことを話したり、友達の伝えたいことを理解したりすることができた。
- 行事のあいさつ文等を書く前に、児童生徒がスピーチメモを書くことで、自分が何を伝えたいかを明確にし、順序よく内容を精選して文章を書き、自信をもって発表することができた。
- メモを書くことで、時間を有効に使ってスピーチをすることができた。
- 検証授業の公開や研究所通信の発行により、学びの基礎基本（本年度は話す・聞く）の定着を図るための指導の在り方について関心を高めることができた。
- 同じ系統の学習内容を整理できたが、学習時期が開きすぎて既習事項とは言えない学習内容があった。これらをいかに復習させていくかを追究していく必要がある。
- 話型表や話合いマニュアルを活用するあまり、話の内容に広がり、深まりが見られない面があった。
- 低学年においては、メモだけを見てのスピーチは難しいので、他教科においても練習させていく必要がある。
- 話す前の書く活動の指導をさらに工夫する必要がある。
- 朝の会や帰りの会でのスピーチをすることは、時間的な問題があった。
- 学びの基礎・基本で実践したことを、町内の学校に推進していく方策を検討していく必要がある。

【参考文献】

小学校学習指導要領	文部科学省
中学校学習指導要領	文部科学省
小学校学習指導要領 解説 国語編	文部科学省
中学校学習指導要領 解説 国語編	文部科学省
小学校・中学校 教科教科書（国語）	東京書籍

【研究同人】

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
教育委員会	所長	家高 清	高原小学校	教諭	甲斐 敦史
教育総務課	研究指導員	深城 義治	広原小学校	教諭	甲斐 裕之
教育総務課	課長	久保田芳人	狭野小学校	教諭	武田 透
教育総務課	課長補佐	齊藤 和男	後川内小学校	教諭	藤田 君代
教育総務課	係長	田上 則昭	高原中学校	教諭	黒木 裕之
			後川内中学校	教諭	村尻 久志